

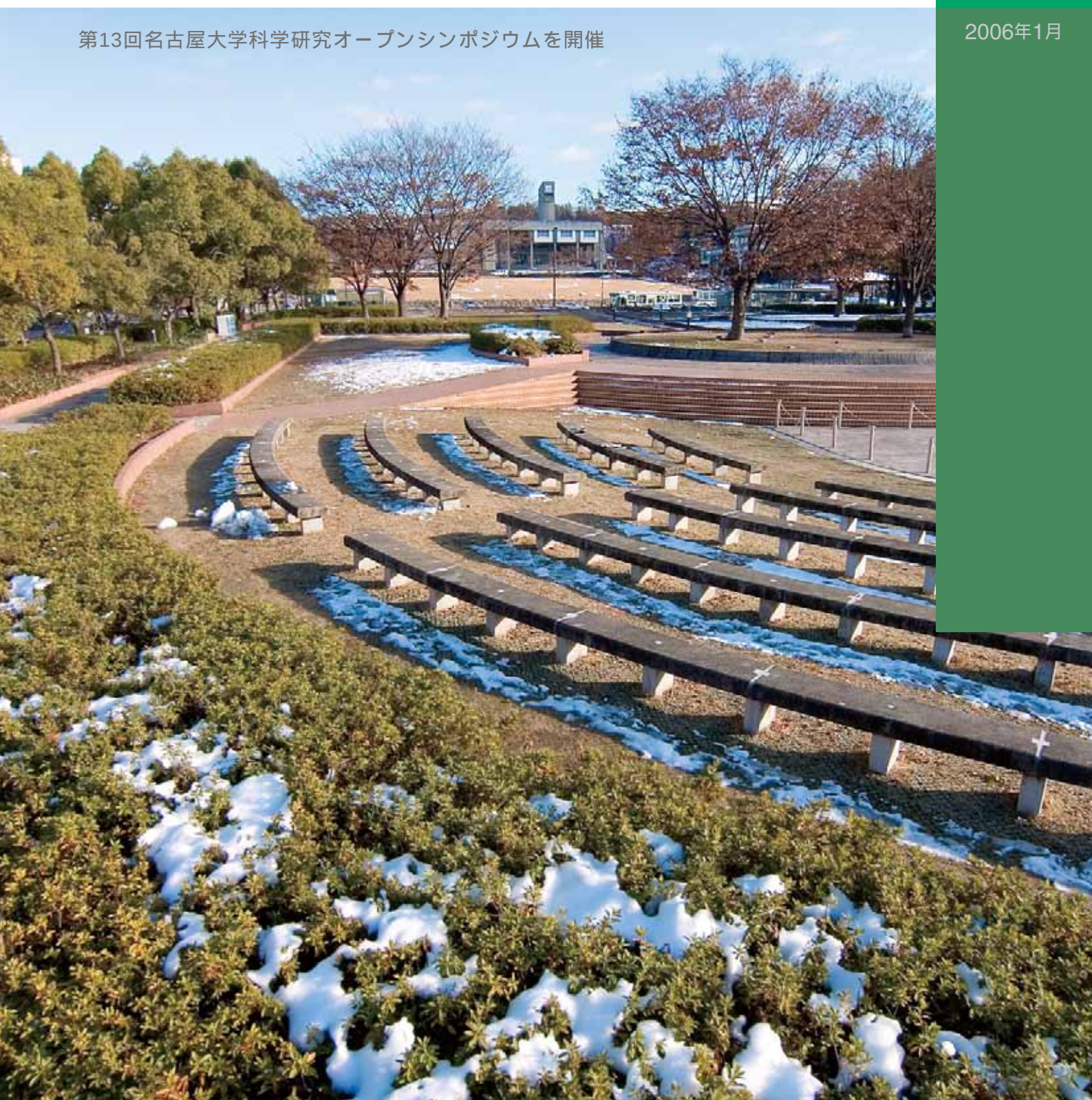
名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.152

2006年1月

第13回名古屋大学科学研究オープンシンポジウムを開催



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

博物館が秋の体験実習を開催

博物館は、秋の体験実習として、11月19日（土）に、「ドングリからさぐる古代の知恵・自然の知恵」を、20日（日）には、「名大の野鳥を見つけよう」を開催しました。

19日に博物館野外観察園で行われた「ドングリからさぐる古代の知恵・自然の知恵」は、日本学術振興会が推進している大学の研究成果の一端を中学生・高校生に紹介する「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」の一つとして開催されたもので、ノーベル化学賞受賞者の白川英樹筑波大学名誉教授が、日本学術振興会の委員として出席し、39名の小学生・中学生・高校生は、白川先生と一緒に、ドングリの自然史やドングリの利用法を学びました。

当日は、平野総長及び白川先生のあいさつの後、ドングリのなる樹木やドングリの実の内部を観察するとともに、ドングリの実と樹木の関係等を学びました。参加者は、大きな樹木には約2万個のドングリがなるが、大部分は動物に食べられてしまい、約1%しか残らない等の興味深い話を熱心に聞いていました。午後からは、観察園セミナーハ



白川筑波大学名誉教授と参加者

ウスで、縄文人が食べていたドングリ団子を作りました。実際に、北海道の縄文遺跡から出土した石器を使って、乾燥したドングリを砕いて殻を取り、粉にした後、少量のひき肉や卵を混ぜてダンゴ状にして茹でたものを試食しました。ドングリ団子には石の粉も混じっていて、食べるとジャリジャリし、このようなものを食べていたため、出土する縄文人の歯は磨り減っていたとの説明に、参加者は納得していました。体験実習終了後には、白川先生から、参加者全員に修了証として、「未来博士号」が手渡されました。

20日の「名大の野鳥を見つけよう」には、小学5年生から高校2年生までの10名が参加し、最初に、講師の大畑孝二さん（日本野鳥の会）から双眼鏡の使い方を教わり、キャンパスの野鳥探しに出かけました。豊田講堂の裏手で、身近なカラス、ハト、スズメ、ヒヨドリを探しながら、野鳥の説明を受けた後、鏡ヶ池周辺で、コサギ、カイツブリを双眼鏡とフィールドスコープで観察し、幸運にも、キセキレイを見つけることができました。その後、セミナーハウスで、野鳥のための巣箱と餌台を作りました。参加者は初めての巣箱作りに慣れない手つきで挑戦していましたが、全員が作り上げ、巣箱の一部と餌台を野外観察園に設置し、半日の体験実習は終了しました。



豊田講堂周辺で野鳥観察をする参加者